

第 115 回日本精神神経学会学術総会

医療法人水明会佐潟荘 医局

令和元年 6 月 20 日（木）～22 日（土）、第 115 回日本精神神経学会学術総会（会場：朱鷺メッセ、会長：新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野 教授 染矢俊幸、副会長：立川メディカルセンター柏崎厚生病院長 松田ひろし）に、当院の精神科医全員が参加しました。また、北村医師は「精神科長期入院患者におけるサルコペニアの有病率」、「精神疾患患者サンプルにおける日本語版神経心理検査 RBANS の因子構造」、「Conners' Adult ADHD Rating Scales の矛盾指標に関する検討」、青山医師は「依存の治療における治療関係の重要性」、増澤医師は「多職種連携が有効であった青年期統合失調症の二例」のポスター発表を行いました。

山形県沖を震源とする地震の影響で若干の参加者の減少があったものの、6000 人を超える参加者があり、学術総会のみならず、懇親会を含む学会員相互の交流が非常に活発でありました。ちなみに、新潟で本学術総会が開催されるのは今回が 3 回目ですが、63 年前の第 53 回学術総会を開催したのは佐潟荘の創立者であり、新潟大学精神医学教室の第 2 代教授であった上村忠雄先生でした。